



戦前の石川

米軍撮影航空写真 1945(昭和20)年2月撮影

また、軍用道路13号線(現県道255号線、旧国道329号)を挟み、東側は米軍保養施設の石川ビーチ、西側は市場があり賑わっており、市場の北側は銀座通りに、南側は栄通りの商店街に接していました。市街地の南側にある南栄通りは、市役所、消防署、警察署、琉米文化会館などが立ち並んでいました。米軍統治時代は、縦の通りを1・2・3の数字で、横の通りをカタカナのイロハで表し、アメリカのストリートの様に区画分けされていました。

戦禍から復興していく中で「ヌチヌグスージサピラ(命のお祝いをしましょう)」と家々を回り、石川の人々を力づけたのは沖縄のチャップリンこと舞天(ブーテン)でした。他にも、露天劇場で演じられる出し物は人々の楽しみであり、1945(昭和20)年12月、城前小学校で行われたクリスマス公演での組踊「花売の縁」では、父と母子が再会する場面で身の上を重ね、観衆はみな涙しました。また、銀座通り西側にある世栄津(ユーエーツー)の道向かいに新興劇場ができると、新興山小(グワー)とも呼ばれるようになりました。

農村であった石川は沖縄戦により一変し、現在へと至っています。このような終戦直後の石川の歴史は、市立石川歴史民俗資料館で触れることができます。

石川の概要

石川は北に石川岳、西に石川岳の裾野がひろがり、南の伊波丘陵へと続き、東は金武湾に面しています。集落は基盤の目の様に整理され、屋敷は福木で囲われていました。後背には石川川が流れています。

1945(昭和20)年4月、米軍により民間人収容所がつけられ、9月に市長選挙等が行われ石川地域が市となると、市役所が置かれました。沖縄諮詢会や市役所、警察署、登記所、病院、郵便局などの公共施設があり、劇場、映画館、市場やバスターミナルがありました。1972(昭和47)年の復帰前に浄水場、保健所、海員学校、警察学校等の施設が、復帰後に赤崎の埋立地に発電所等の大型事業所が誘致されました。

米軍の保養所の石川ビーチは復帰と共に返還され、市街地と、象設計集団が設計した白浜公園が整備されました。一部は埋め立てられ市役所が移転し、グラウンド、野球場、体育館、テニスコート、市民会館、市民プール等の公共施設が整備されました。沖縄自動車道の石川ICがあり、うるま市の玄関口となっています。

*象設計集団

沖縄の気候風土を公共施設の設計に活かし日本建築学会賞を受賞した。市内では、石川白浜海浜公園(石川公園)に携わった。

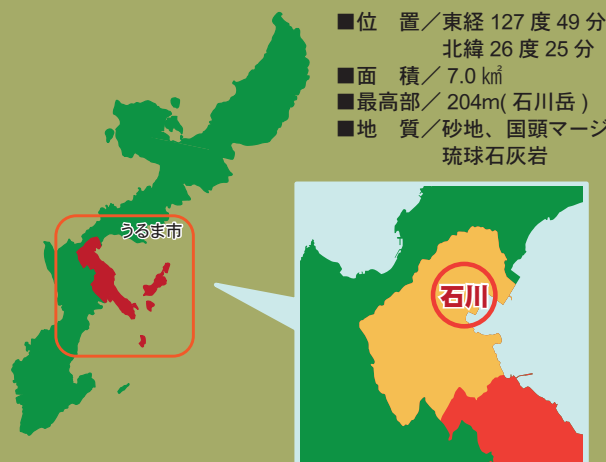
■人口 / 14,294 人 ■世帯数 / 6,519 世帯
※2023年2月28日現在

石川岳と街並み

石川岳は石川の北にそびえ立つ標高204mの山で、うるま市で一番高い所であり、中部で一番高い山になります。沖縄戦の時、石川の人たちは、谷間のカーラングワーに避難していました。



INFORMATION



沖縄県うるま市教育委員会
社会教育部 文化財課

〒904-2292 沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号

TEL(098)923-7182

うるま市
文化財シリーズ 20

石川

～戦後発祥のまち～

ISHIKAWA

フクギに囲まれた石川は旧美里村の一部でしたが

沖縄戦により民間人収容所が設置され

石川市となりました。

現在の県庁にあたる沖縄諮詢会や

沖縄初の新聞社・図書館が設置されました。

石川は、米軍統治下でアメリカ文化と接し

役立つ部分を自らの生活に取り入れていくことで

戦後復興の発祥地となりました。



歩いてみよう!

舞天(ブーテン)

沖縄県うるま市教育委員会



終戦直後の石川

1945(昭和20)年4月1日、沖縄島に上陸した米軍によって字石川に設置された民間人収容所は、村・町を飛び越えシティー(市)と呼ばれ、メイヤー(市長)が任命されていました。人口1,800人程度だった石川は、戦後、30,000人余に増え、1屋敷に100人以上住んでいたと言われています。

同年9月の地方行政緊急措置要綱に基づき各収容所は市となり、市長や議員選挙が実施されました。石川市は美里村の北部の6字で法に基づいた市で、石川部落事務所に市役所が置かれました。1946(昭和21)年3月、人々が帰村出来るようになると、各市は解消されましたが、石川市だけは、2005(平成17)年4月に具志川市、勝連町、与那城町と合併し、うるま市となるまで、60年存続しました。

字石川は戦後復興の先駆けとなった地で、戦後初の政治機構である沖縄諮詢会や、ウルマ新報、中央図書館石川分館が設立されました。戦時中である5月7日には石川学園が開校し、7月には石川高等学校、10月には城前初等学校、宮森初等学校に分かれました。他にも養老院・孤児院、石川地区病院、埋葬所、石川ホテル、郵便局、登記所、裁判所、バスターミナル、石川ダム等がありました。

① 沖縄諮詢会堂跡【市指定文化財(史跡)】



1945(昭和20)年8月、米軍の指揮下で戦後復興を進める政治機構として、戦災を受けていなかった民家に作られました。15名の委員が選出され、委員長には赤道出身の志喜屋孝信が選ばれました。終戦後の沖縄における自治・行政の発祥地として位置づけられるため、2005(平成17)年3月1日、市指定文化財(史跡)となりました。

② ウルマ新報



提供：琉米歴史研究会

1945(昭和20)年7月25日、米軍の情報宣伝紙として創刊され、諮詢会堂の付近に社屋が作られました。戦後初の新聞として、紙面はガリ版刷りで印刷され、無料配布されていました。また、1947(昭和22)年4月には民間企業となり、購読も有料化されました。1948(昭和23)年夏には、本社を石川から那覇に移し、1951(昭和26)年9月10日には紙名を『琉球新報』と改め、現在に至ります。

③ 銀座通りと世栄津(ユーエーツー)



「銀座通り」は、石川を2つに分ける通りで、道の北側をクシダカリ、南側をメンダカリと言います。通りの両側には多くの商店が軒を連ね、とても賑やかでした。銀座通りの西側には「世栄津」と呼ばれる場所があり、銀座通りの北側をクシヌユーエーツー、南側をメヌユーエーツーと言います。クシヌユーエーツーには旧石川市の戦没者の慰霊塔「聖魂之塔」と刻銘板、宇石川の拝所の「石川の宮」があります。

④ 南栄通りと県道255号線



「南栄通り」は石川の南側にある大きな通りで、終戦直後は、県道255号線(旧国道329号、旧軍用道路13号線)と繋がる辺りに収容所のゲートがあり、付近には軍作業に出る際の集合場所がありました。また、通り周辺には市役所や消防署、警察署、郵便局、文化施設(琉米文化会館)など、多くの公共施設が集まっていました。

⑤ 琉米文化会館



アメリカの政策や情報を住民に周知させることを目的に、1951(昭和26)年から1952(昭和27)年ごろまでに、石川を含む5カ所に設立されました。各館には約1万冊を所蔵した図書室や200～300人を収容できるホール、集会室などがありました。また、石川琉米文化会館の図書は、戦後初の図書館である中央図書館石川分館の図書を引き継いだものでした。

戦後石川ポイントマップ



その他の施設

- ア. 石川学園跡
- イ. 石川地区病院
- ウ. 石川市役所跡
- エ. 石川市役所跡(仮)
- オ. 小那覇歯科跡

※紫数字(1～6) 緑カタカナ(イロハ) 収容所の頃の通りの名前

- カ. 野外劇場跡
- キ. バスターミナル跡
- ク. 石川橋
- ケ. 水門跡
- コ. 郵便局跡

- サ. 埋葬所跡
- シ. 石川ビーチゲート跡
- ス. 石川市役所跡・消防署跡
- 労働所跡・登記所跡
- 食糧配給所跡

- セ. 警察署跡
- ソ. 市場跡
- タ. 新興劇場
- チ. 養老院
- ツ. 洋裁学校跡

⑥ 石川部落事務所【市指定文化財(史跡)】



1932(昭和7)年ごろに、ハワイ移民の送金によって建築された石川部落事務所は、現在も部落会などで使用されています。部落事務所は、石川市の最初の市役所として活用され、市役所が南栄通りに転移するまで利用されていました。戦後復興の歴史的に重要な遺産として、2005(平成17)年3月1日、市指定文化財(史跡)となりました。

⑦ 石川ビーチ



東恩納から金武町向けに石川の海側を通る、県道255号線(旧国道329号、旧軍用道路13号線)の東側にあるビーチです。かつてはフェンスに囲われた米軍の保養施設でしたが、1972(昭和47)年の本土復帰に伴い、全面返還されました。跡地は区画整理事業が行われ、公園や住宅地として整備されました。

⑧ 大洋初等学校



1945(昭和20)年10月22日、石川学園(のちの城前小学校)の生徒数が増え、学校運営が困難となったため宮森初等学校が分離開校しました。さらに戦後の人口集中によって、児童・生徒が増え続けたため、1946(昭和21)年4月1日、石川ビーチ内に開校したのが大洋初等学校です。しかし、米軍がビーチを接収し、立ち退きを受け、衣料倉庫跡(現石川中学校敷地)に移転しました。その後、1948(昭和23)年4月の六・三・三制移行に伴い、わずか2年で閉校となりました。

⑨ 小那覇全孝(舞天)



今帰仁出身で、嘉手納にて歯科医院を営んでいましたが、戦後、石川収容所に収容されました。自ら作詞・作曲・振り付けを行い、踊りを指導するほど、琉球芸能の達人で、収容所内では照屋林助氏を伴い、民家を訪ね、笑いを提供することで人々を励まし、勇気づけました。また、沖縄諮詢会文化部の初代芸術課長を務め、石川における劇団誕生の陰の力となり、芸能グループのフォーシスターズも小那覇氏によって育てられました。

⑩ 仲よし地蔵



1959(昭和34)年6月30日、米軍のジェット機が宮森小学校に墜落し、17人が死亡、210人が負傷し、住宅17棟・公民館1棟・校舎の3教室が全焼したほか、住宅8棟・校舎の2教室が半焼しました。事故の事を知った東京都の佐藤日建という僧侶が、武者小路実篤氏に地蔵の絵を依頼し、それを銅板にして宮森小学校に寄贈され、事故後7年目に「仲よし地蔵」が建立されました。